

アクションプランの進捗状況について

令和5年7月に「県立中井やまゆり園当事者目線の支援アクションプラン～一人ひとりの人生を支援する～」(以下「アクションプラン」という。)を策定して以降、アクションプランに基づく取組を進めてきた。

令和7年度は計画期間の最終年度であることから、計画期間3年間の成果や課題を見える化し、地方独立行政法人における福祉科学研究や支援の実践につなげていく。

1 柱ごとの取組状況(令和7年度は12月末時点の実績)

(1) 人生に共感し、チームで支援する

<取組状況・達成度を示す指標>

○ 生育歴・人となりシート

- ・令和4年度に全利用者の生育歴・人となりシートの作成済
- ・カンファレンスを通じて随時見直し

令和5年度	53名のカンファレンスを実施
令和6年度	41名のカンファレンスを実施
令和7年度	R5、R6に実施していない利用者を中心に実施 ・担当職員が随時更新していても、カンファレンスのスケジュールや進行管理が不十分だった。8月以降、定期的なカンファレンス開催、進捗確認をしている。

○ 利用者面談

令和5年度	69/87名の面談を実施
令和6年度	未実施
令和7年度	21/82名 ・個別支援計画の見直し過程に合わせて、計画を利用者本人に説明する際、園幹部職員が同席し、利用者面談を実施。(同席できなかった場合は別途実施)

○ モニタリング会議の本人参加

- ・令和5年度に泉寮で先行して参加し、令和6年度以降、全寮で原則本人参加している。

<成果・課題>

- ・ 生育歴の理解と共感を支援の土台に据える方向性は明確になり、利用者の理解を深め、可能性を感じてもらう契機になっている。
- ・ 園全体での進行管理に加え、日常的に利用者のことを議論する文化を醸成できるよう利用者を中心とした園運営、マネジメントをしていく必要がある。

(2) 暮らしをつくる

<取組状況・達成度を示す指標>

○ オール中井デー

令和5年度	7月に全寮で企画し、水族館、宮ヶ瀬、牧場等へ外出 ・1回実施、延べ176名参加 (利用者83名、職員87名、地域ボランティア6名)
令和6年度	6月に散歩やごみ拾い等の地域貢献活動、7月に津久井やまゆり園の献花(分散実施)を実施し、全ての利用者が参加 ・2回実施、延べ294名参加(利用者153名、職員141名) ・11月以降、園内の活動班を単位に果樹園作業を実施
令和7年度	オール中井デーの実施に至っていない。 ・これまでの実施によって園外活動の課題(活動場所・移動手段等)が明らかとなり、職員の園外活動への意識も変化している。 ・全利用者の園外活動の実績を確認中で、外出機会の少ない利用者の園外活動に重点的に取り組む。

○ らっかせい

令和5年度	実人数38名 延べ 735名 実施回数215回
令和6年度	実人数53名 延べ1,161名 実施回数224回
令和7年度	実人数59名 延べ 917名 実施回数176回 ・園外活動の機会の少ない利用者を中心に参加 ・活動場所に対し、一日当たりの活動人数は少ない日もあり、継続した参加運営が必要

<らっかせいでの活動を通じた利用者の変化>

- ・人との関わりの拡大と深まり
- ・荷物を分担・係を担う等、共同作業・役割をもった活動
- ・情緒の安定・集団への意識(待つ/合わせる/気にする)
- ・体力が付く(姿勢の保持、座りこまずに立って移動・活動)
- ・掃除等の作業が上手になっている
- ・らっかせいの活動を通じて外部事業所への通所につながる

○ 近隣農家や他事業所との連携による農作業を通じた地域連携

- ・3か所の畑を協働運営し、農作業を通じた園外活動を継続

令和5年度	・農作業を通じた活動 延べ355名
令和6年度	・農作業を通じた活動 延べ105名 ・地域イベント3回(麦踏み体験等) 延べ105名(利用者29名、職員18名、地域住民等58名)
令和7年度	・農作業を通じた活動 延べ552名 ・地域イベント2回(麦の収穫体験・うどん作り等) 延べ54名(利用者18名、職員7名、地域住民等29名)

○ 外部事業所・グループホームの体験利用の促進

- ・現時点で外部の事業所への通所 30 名、グループホーム 2 名
- ・外部事業所の利用は年々増加

○ モデル寮の運営

- ・令和 7 年度から海寮を園長直轄のモデル寮と位置づけ
- ・6 月から日常的に寮の全ての利用者が園外で活動

○ 利用者自治会等、当事者主体の活動

- ・令和 5 年度から、利用者全員が集まる利用者自治会を毎月開催

○ 当事者目線に立った事業計画・予算を作成

- ・令和 6 年度から、アクションプランに沿った運営計画を作成

<成果・課題>

- ・多くの利用者が園外での活動に取り組み、活動の幅や利用者の暮らし、表情なども変わってきている。
- ・園の大きな方針である事業計画の作成と予算との紐付けが不十分なことから、施設としての位置付けや権限、役割分担が曖昧となり、計画的な進行管理が十分に行われていない。

(3) いのちを守る施設運営

<取組状況・達成度を示す指標>

○ 日常の健康管理

- ・健康診断結果、眼科検診結果、てんかん発作状況等のリスト作成

○ 医療提供体制の見直し

- ・令和 6 年 11 月に医務統括、医務統括補佐を配置し、医務統括アセスメントを毎週実施（全利用者のアセスメントを 1 回終え、2 回目）
- ・令和 6 年 10 月に医療・健康管理問題改革委員会を設置

○ 虐待が疑われる事案や事故が発生した場合の対応

- ・虐待防止マニュアルを見直し中

<成果・課題>

- ・園全体での健康リスクの見える化を進め、医務統括アセスメントを通じて、利用者の機能低下、低栄養状態等の課題が明らかとなり、一人ひとりへの支援の見直しが進められている。
- ・過去の元気だった様子も含め、生育歴を丁寧に理解するとともに、日々のバイタル、食事摂取、睡眠状況などの記録や健診結果などを評価・振り返る等、寮職員が利用者の健康状態を主体的に把握し、異変に気づき、医療へ繋いでいく必要がある。
- ・健康リスクの見える化や医務統括体制の整備は進んだが、医務課や専門職任せとなりやすく、健康課題を暮らし（活動・食事・支援や関わり等）を基本に考えていく必要がある。

(4) 施設運営を支える仕組みの改善

<取組状況・達成度を示す指標>

○ 利用者満足度調査の実施

令和5年度	職員が利用者一人ひとりに対して、園生活の満足度を聞き取る形で利用者満足度調査を実施
令和6年度	毎月開催する利用者自治会で、定期的に直接利用者の意見を伺い、随時支援へ反映する取組を開始
令和7年度	

○ エラー&グッドプラクティス・レポーティングシステム導入

- ・令和7年2月から現場職員が些細なことでもためらわず報告できる仕組みとして、試行実施。
- ・エラー、グッドプラクティス、ひやりはっと報告は1000件を超え、7月から1～2か月ごとに集計・フィードバック

○ 当事者目線の支援を実践する人材育成

- ・県立施設全体でICF（国際生活機能分類）を活用した研修を実施
- ・園内委員会等で企画を行い、園内研修を実施も実施しているが、人員体制等により参加者が限られてしまっている。
- ・また、園全体の研修・人材育成計画が明確になっておらず、園の課題や支援現場のニーズを踏まえた計画的な研修になっていない。

<成果・課題>

- ・エラー&グッドプラクティスの共有は進めているが、改善につなげる議論・振り返りは寮に依存しており、日常的に報告と振り返り、内容によって組織全体で議論する仕組みとしては安定していない。
- ・研修は、人員体制等により参加者が限られてしまっており、また、園全体の研修・人材育成計画が明確になっておらず、園の課題や支援現場のニーズを踏まえた計画的な研修になっていない。

2 今後のアクションプランの評価について（案）

- 園と県本庁が、アクションプランの4つの柱ごとに、評価として、
 - ① 「達成度を表す指標」を設定し、年度末までの進捗把握
 - ② 「具体的な取組状況や成果」として、アクションプランの核となる取組について、実施回数等の取組状況（アウトプット）に加え、利用者の暮らしが豊かになったのかななどの成果（アウトカム）を整理
 - ③ できていること、できていないことを振り返り、「課題」、「今後の方向性」を取りまとめる。
- アドバイザリー会議で、4つの柱ごとの評価を検討するとともに、アクションプランの「総括評価」と「アドバイザリー会議としての意見」を取りまとめる。
- 令和7年度末までの取組実績を把握した上で、令和8年度当初に「アクションプラン評価調書」（別添イメージ）として取りまとめる。

3 今後のスケジュール

1月20日 第6回アドバイザー会議

(議題)

- ① 個別検証の実施（1事例）
- ② 福祉的な検証結果（論点整理（叩き台））
- ③ アクションプランの進捗状況

2月2日 第7回アドバイザー会議

(議題)

- ① 福祉的な検証結果（論点整理（案））
- ② アクションプラン評価（方向性）

.....
5月 第8回アドバイザー会議予定

(議題)

- ① 福祉的な検証結果の取りまとめ
- ② アクションプラン評価の取りまとめ

6月 医療・健康管理問題改革委員会

(議題)

福祉的な検証結果を踏まえた最終報告書とりまとめ

6～7月 公表（県議会・県ホームページ）

「県立中井やまゆり園 当事者目線の支援アクションプラン」 評価調書

(令和5年度～令和7年度)

総括評価

評価

課題

今後の方向性

アドバイザー会議の意見

I	人生に共感し、チームで支援する
取組内容	○ 利用者一人ひとりに、これからどのように暮らしたいかを聞いて、その実現に向けた支援を約束し、チームで支援する また、利用者一人ひとりの人生を支援するためのガバナンスを強化する

具体的な取組状況と成果	
◆生育歴・人となりシートの作成	
◆利用者面談の実施	
◆モニタリング会議の本人参加	
◆個別支援計画の策定・見直し	
アクションプランの達成度を表す指標	
課題	
今後の方向性	